

平成22年度全国学力・学習状況調査の

大山町の結果概要をお知らせします

続報

広報「だいせん」11月号で「全国学力・学習状況調査」の結果概要をお知らせしましたが、今回は、その続報として、特に生活習慣や学習環境などに関する質問紙調査結果を中心にお知らせします。

質問紙調査から見える

児童生徒の姿

図書館の利用

質問紙調査において、県や国と比べて特徴的な傾向のある項目がみられます。

読書習慣（表1）について、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館へ「週に4回以上」「週に1回3回程度」行くと答えた小

学校6年生の割合は、国より19・7ポイント、県より4.5ポイント高くなっています。中学校3年生も同様な傾向がみられます。

町内の小中学校の図書環境の整備も進み、児童生徒が、積極的に図書館などを活用していることがうかがえます。

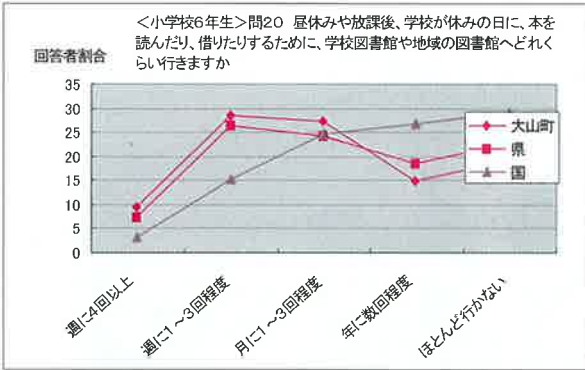


家庭学習の時間（表2）については、国や県と比べて、2時間以上学習する中学校3年生の割合は、10パーセント以上低くなっており、1時間未満の中学校3年生の割合が高くなっています。

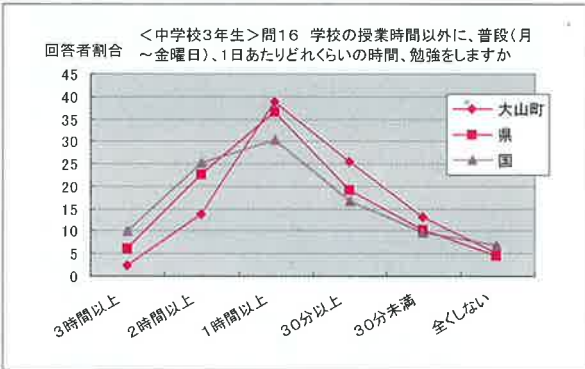
これは、小学校6年生でも同様な傾向がみられます。家庭学習の時間は、休日でも、県や国と比べると少ない傾向がみられます。家庭学習の習慣を身につけることが課題となっています。

また、グラフでは示していませんが、「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の問いでは、「携帯電話を持っていない」と回答した割合は、全国の小学校6年生が約7割であるのに対して、本町の小学校6年生は約8割であり、全国の中学校3年生が約4割であるのに対して、本町の中学校3年生は約7割となっています。携帯電話を持つていない児童生徒の割合は全国と比べて、ずいぶん高いことがわかります。

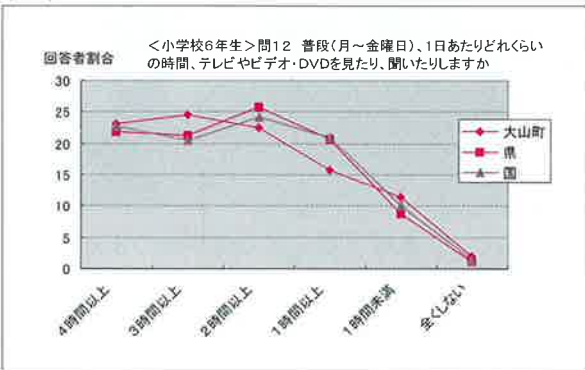
（表1）



（表2）



（表3）



テレビなどの視聴時間

平日のテレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間（表3）については、「3時間以上」と回答した小学校6年生は、県や国より高くなっています。また、同じ質問に対して、中学校3年生においては、「2時間以上」と回答した割合が県や国よりやや高くなっています。このことから、町内の児童生徒は、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりする時間が長いことがわかります。